

箱のかん注処理で 抵抗力をつけて、 本田へ 前途洋々



ルーチン[®]
フロアブル

イネ自身に抵抗力をつけていもち病を
防除する植物病害抵抗性誘導剤
「ルーチン[®]」のかん注処理剤



®ルーチンはバイエルグループの登録商標



ルーチン®フロアブルの特長

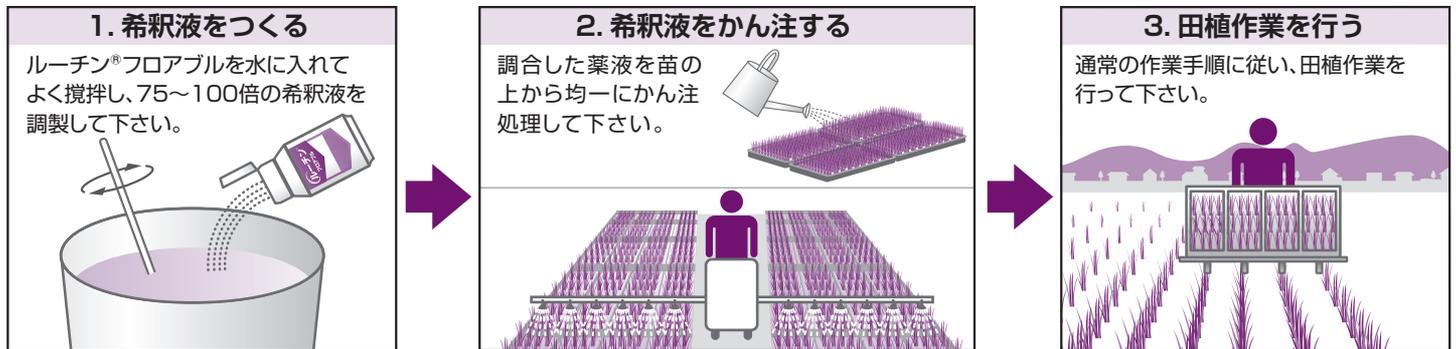
- 1 いもち病に育苗箱かん注処理で箱粒剤と同等の高い防除効果を示します。**
(本剤の100倍液0.5ℓ/箱処理は、ルーチン®剤の箱粒剤50g/箱処理と同じ有効成分投下薬量になります。)
- 2 浸透移行性に優れ、長い残効性があります。**
- 3 植物病害抵抗性誘導型殺菌剤ですので、耐性菌発達のリスクが小さい薬剤です。**

適用病害および使用方法 (2019年8月現在)

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用量	使用時期	使用回数*		使用方法
					本剤	インチアニル	
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 内穎褐変病	75~100	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り0.5ℓ	移植3日前 ~ 移植当日	1回	3回 (移植時までの処理は1回、 本田では2回)	灌注
	もみ枯細菌病	75				3回 (移植時までの処理は1回、 本田では2回)	
稲	いもち病	原液	100ml/10a	移植時		3回 (直播では種時または 移植時までの処理は1回、 本田では2回)	ペースト肥料 に混合し側条 施肥田植機で 施用する。

*印は収穫物への残留回避のため、本剤およびそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。

育苗箱かん注処理のポイント



・希釈液の調製後は速やかに処理して下さい。

・軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などには使用しないで下さい。
・薬液が育苗箱からこぼれないようにご注意ください。
・育苗箱にかん注剤を処理したハウス内では、後作物の栽培は避けて下さい。

※本剤と液肥との混用、および本剤処理後の液肥散布は、葉先枯れ症状を発生させる場合がありますので、避けて下さい。また、液肥散布後に本剤を処理する際には、1日以上間隔をあけて下さい。

※本剤の処理後、葉面に白い薬斑(汚れ)が生じる場合がありますが、稲への影響は認められません。

注意事項

- 使用前によく振ってから使用して下さい。
- 本剤を誤って過剰に使用したり、本剤使用後4日以上移植せずに育苗箱中におくと葉先枯れなどの薬害を生じることがあるので、所定の使用量、使用時期、使用方法を厳守して下さい。
- 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などには薬害を生じるおそれがあるので注意して下さい。
- いぐさ栽培予定水田では使用しないで下さい。また、本剤を処理した稲苗を移植した水田ではいぐさを栽培しないで下さい。
- さく等の他作物に影響を及ぼす場合がありますので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行って下さい。また、土壌全面に不透水性無孔シートを敷くなど、薬剤処理後の灌水による土壌への浸透をさけて下さい。
- 本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じやすいので、代かきは丁寧にを行い、移植後田面が露出しないように注意して下さい。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 誤飲などのないよう注意して下さい。
- 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用して下さい。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換して下さい。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯して下さい。
- かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触を避けて下さい。
- 夏期高温時の使用を避けて下さい。
- 直射日光を避け、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密栓して保管して下さい。

●使用前にはラベルをよく読んで下さい。 ●ラベルの記載以外には使用しないで下さい。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。

バイエル クロップサイエンス株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262 <https://cropscience.bayer.jp>

お客様相談室 ☎0120-575-078 9:00~12:00, 13:00~17:00
土・日・祝日を除く

(F-2063 19.08.JWT)